

幼稚園教育実習実態調査

谷 直子*, 高橋 裕子**

(平成 18 年 10 月 11 日受理)

An Investigation of the Actual Circumstances of Teaching Practice in Kindergarten

TANI, Naoko and TAKAHASHI, Yuko

(Received on October 11, 2006)

キーワード：教育実習，保育者養成，保育観

Key words：Teaching Practice, Nurture Person Training, Nurture View

I. 研究目的

学生は、カリキュラム上の多くの授業を通して、保育者としてのスキルを学んでいく。その学びの過程において教育実習は、大学内での学習内容と実際の保育実践とを結びつける重要な位置にある教科である。実習に至るまでの大学内での学習は、実際の子どもぬきでの保育イメージやシミュレーションで得られる知識や技術がほとんどである。実習を体験することによって、幼稚園という空間の中で生身の子どもに触れて初めてそれまでの学習が生きてくると言えよう。

また、学生は実習を通してそれまでの自分に向き合い、保育者としての自覚を改めて再認識する機会を持つ。優れた保育者に出会うことによって理想の保育者像を形成したり、子ども達と生活する事によって、より具体的に自分がどのような保育者になりたいのかを模索したりするのである。それは、卒業後自身の職場を選択する事につながる重要なファクターとなる。幼稚園教諭，保育士になった学生になぜその進路を選んだか尋ねると教育実習及び保育実習を経験してという答えが非常に多い。

幼稚園教育実習は大学で学んだことの集大成であると同時に、その学生が進路を決める上でも重要な経験となるといえる。

では、どのような実習の過程が学生にとって、もっとも効果的な経験となるのであろうか。本研究は、その課題を考える第一段階として現在行っている実習の実態を把握しようとするものである。学生が、どのようなステップをふんで実習を経験しているのか、そしてその結果どのような感想や課題を持って大学へ戻ってきているのかを知る事を目的とした。

II. 研究方法

1. 調査方法：質問紙法

2. 調査対象及び人数

調査対象は、東京家政大学児童学科・保育科に在籍し教職課程を履修している学生である。

幼稚園教育実習終了後ただちにアンケートを実習生全員に実施した。その中から対象としたクラスは平成18年度学部4年生児童学専攻と育児支援専攻，保育科2年生2クラスとした。アンケートの有効回答数は児童学専攻64名，育児支援専攻57名，保育科2クラス76名である。また，比較検討のために平成7年度児童学専攻62名の調査も参考とし，ともに分析考察を行った。

3. 調査年月日

今回の調査は，2回に分けて2週間ずつ計4週間実施される実習の最後の2週間の実習を終了した直後に実施し，その結果を対象に考察した。実施時期は平成7年，

* 教育・保育実習室

** 教育実習研究室

18年とも6月である。

4. アンケート

学生に行ったアンケートの項目は次の通りである。

問1. 現在の就職希望を答えて下さい。

問2. 園について答えて下さい。

①実習園名 公立・私立 _____ 幼稚園

②勤務状況 出勤所要時間

出勤時刻 _____ 時 _____ 分

退勤時刻 _____ 時 _____ 分

問3. 配属クラスについて答えて下さい。

①希望クラス

②配属クラス 3歳児 _____ 日

4歳児 _____ 日

5歳児 _____ 日

問4. 実習内容について答えて下さい。

①部分実習 _____ 回

〈内容〉 1 _____ 2 _____ 3 _____

〈指導計画案〉あり・なし

②半日実習 午前 _____ 回・午後 _____ 回

〈指導計画案〉あり・なし

③全日実習 _____ 回

〈内容〉 _____ 〈指導計画案〉あり・なし

④研究保育 _____ 回

〈内容〉 _____ 〈指導計画案〉あり・なし

問5. 幼稚園はどういう所でしたか。印象を具体的に書いて下さい。

問6. 幼稚園の子どもについて、印象を具体的に書いて下さい。

問7. 幼稚園の保育者の印象を具体的に書いて下さい。

問8. 実習前のオリエンテーションは役にたったと思いますか。役に立ったと思うものを具体的に書いて下さい。

問9. 就職を前に、どのような準備が必要だと思えますか。

問10. あなたの理想とする保育者像を書いて下さい。

問11. 保育者としてのあなた自身の姿を絵で描いて下さい。

Ⅲ. 結果と考察

本学児童学科及び保育科での教育実習は、全体で4週

間の実習を2週間ずつ2度に分けて実施している。

その実習において、学生がどのような段階を踏んで実習を行うかは、学生の成長にとって非常に重要であると考える。

第一回目の実習は、見学・観察・参加実習として行われ、子どもの集団の中に身を置いて、「幼稚園の全体把握」を中心に「子どもとのかかわりの体験」「保育者の役割」などを学習する。その中で、「朝の会」「昼食時の活動」「主活動」「降園時の活動」等の部分実習を数回体験する事で自分の実力や課題が見えてくる。

2度目の実習においては、最初の実習をふまえた大学での準備を経て仕上げの実習としての「一日責任実習」を体験することが目的となる。その場合2週間の実習は、「部分実習」を数回繰り返ししながら子ども達の実態を把握し、午前午後の「半日実習」を経験し、「一日責任実習」と進むのがもっともスムーズな学習の進め方なのではないであろうか。このような仮説を基に、前記のような意識調査を実施した。その結果を次に述べる。

【実習のステップ】

部分実習を数回行い、半日実習を1～2回行った上で全日実習及び研究保育を行うというステップを踏んで実習を行う事が出来た学生は197名中38名であった。全体数の19%と2割を切っている。これは、予想以上に少ない結果であった。

部分実習→半日実習→全日実習・研究保育のステップを踏んでいる実習生が幼稚園をどのように捉えたのか見するために問5と問7の質問への記述からキーワードとなるような文章を拾い出した。また、比較のために部分実習のみ、もしくは部分実習を0回か1回と少ない回数で半日及び全日実習を行った学生の記述内容も同様に拾い出した。

《ステップを踏んでいる学生の記述》

①幼稚園はどういうところでしたか。印象を具体的に書いて下さい

- | | |
|-------------------|----|
| ・のびのびと過ごしている | 6名 |
| ・遊びを通し学び、成長できる場所 | 5名 |
| ・穏やかで暖かい雰囲気 | 5名 |
| ・自然との触れ合いを大切にしている | 3名 |
| ・保護者から信頼されている | 2名 |

・一人一人の気持ちにより添った援助や 丁寧な関わりがもたれている	2名	・のびのびしている	3名
・ねらいに沿って保育がなされている 年齢に応じた指導が行われている	1名	・課題が多い・年齢に対して高度である	2名
・指導が厳しかったが楽しく勉強になった	1名	・自由	1名
・子ども達が身体を十分に動かしている	1名	・家庭的な雰囲気	1名
・理想の保育を見ることが出来た、 保育者が明るく元気、教育熱心で厳しい	各1名	・メリハリがある保育	1名
		・子どものペースをたいせつにしている	1名
		・将来に向け様々なことを身につける	1名
		・明るく元気	1名
		・しつちに厳しい	1名

②幼稚園の保育者の印象を具体的に書いて下さい

この設問に対しての答えは「保育に関すること」「保育者集団に関すること」「保育者のパーソナリティーに関すること」の3つに分類した。

(保育に関すること)

・子どもへの対応が丁寧	3名
・幼児理解に基づいた援助や対応をしている	2名
・ねらいに適した保育を考えている	2名
・子ども達とたくさん関わっている	2名
・子どものことを一番考えている	2名
・子どもへの愛情が伝わる暖かい関わり	2名
・配慮が細やか、保育者自身が楽しんで 保育をしている、メリハリがある	各1名
・遊びが展開するような環境を作っている、 忙しく仕事に追われている	1名
・様々な視点から子どもを見るようにしている	1名

(保育者集団に関すること)

・保育者同士の連携がよい	5名
・ベテランの先生が多い	1名

(保育者のパーソナリティーに関すること)

・優しい、穏やか	9名
・明るく元気	7名
・厳しいけれど根は優しい	2名
・仕事熱心	2名
・誠実	1名
・教師としての誇りをもっている	1名
・手際がよい	1名
・厳しい	1名

《ステップを踏まずに実習した学生の記述》

①幼稚園はどういうところでしたか、印象を具体的に書いて下さい

・活動が決められている	3名
・自発性、主体性を大切にしている	3名

②幼稚園の保育者の印象を具体的に書いて下さい

(保育に関すること)

・子どものことをよく考えている	2名
・生活の中のルールをきちんと指導している	2名
・子どもの主体性を大切にしている	1名
・保育でのとらえ方が異なる部分があり 実習がやりにくかった	1名

(保育者集団に関すること)

・保育者同士がよく話し合っていた	1名
・協力しあっていた	1名
・保育者同士仲がよい	1名

(保育者のパーソナリティーに関すること)

・厳しい	3名
・元気でパワフル	2名
・優しい	1名
・若々しい	1名

上記の結果から見えてくる、ステップを踏んで実習している学生とそうでない学生の大きな違いは幼稚園教育のとらえ方であろう。「遊びを通して学び成長できる」ところ「ねらいに沿って保育が行われている」「年齢に応じた指導が行われている」等実習で目を向けて来てほしい事柄の記述が段階を踏んで実習を行った学生には見られるが、段階を踏まずに実習を行っている学生にはこのような記述は見られなかった。

部分実習、半日実習、一日実習を行う時は多くの場合指導案を書き、実習に臨む。繰り返し指導案を書いて先生方に指導していただく中で、子ども達の発達の捉えと発達に応じた指導のあり方、保育におけるねらいのとらえ方へ目を向ける事が出来たのではない。

実際に子ども達の前に立ち、実習を行ってみると指導案通りに行かないことが多々ある。その体験から先生方

の何気なく見える援助や言動も実は、幼児理解に基づき、ねらいをもって子ども達一人一人や学級集団に向き合っていることが見えてきたのであろう。

そのことは、保育者の印象を書いた問7への記述からも見えてくる。ステップを踏まずに実習している学生は保育者のことを「子どもの主体性を大切にしている」「子どものことをよく考えている」という具体性を欠いた内容で記している。それに対してステップを踏んで実習を行っている学生は「幼児理解に基づいた援助や対応をしている」「ねらいに適した保育を考えている」「遊びが展開するような環境を作っている」といった、より具体的な記述が見られ、もう一步踏み込んだ教師像を描いている。この内容はまさに実習で学んできてほしいと思われる要素である。

また、「保護者から信頼されている」との記述があったが、保育の内容のみならず、保育を行っていく上で重要な保護者との関係にまで目を向けられている学生もいたことがこの記述から考えられる。

全体を通して、段階を踏んで実習した学生は、幼稚園のことを肯定的にとらえている学生が非常に多いことがアンケートから読み取れる。やや否定的な表現があったのは「教育的で厳しい」と「厳しい」の2名のみでその他の学生は皆、幼稚園の印象、保育者の印象、共に肯定

的に受け止めた表現となっている。

実習での学びは、そこで行われている幼稚園教育の内容や先生方の指導に共感したり、素晴らしいと感じたりして、初めて見えてくる部分もある。保育者の意図やねらいにまで気付くことが出来て初めて理解できることもある。肯定的に受け止めることが出来るということは、学ぶチャンスを自らつかむ原動力になると思われる。

先生方が行っている援助のねらいは何か、環境設定はどのような遊びの展開を促す意図が含まれているのか、等ということまで学び取ってこられると、今までの大学での学習が机上のものだけに留まらず保育に関する理論と実践とを自分なりに統合できていくのではないかなと思われる。そのような、経験をした学生は新たな学習意欲をもって今後の授業への取り組みができることが予想される。そこまで実習で学ばせていきたいと思う。

これらのことから、部分実習、半日実習、一日実習と段階を踏んで実習を行うことが学生の学びをより深いものにすることが言えるのではないだろうか。

また一方で、実習園での実習がどのような段階を踏んで行われても、保育のねらいや援助の意図にまで気付くことが出来る、基礎的な力を大学で学習し身につけておくことも、必要なことであると思われる。

表1:実習内容

	平成7年度		平成18年度					
	大学(4年)		大学(4年)		短大(2年)		合 計	
1 手遊び	16	26%	54	45%	35	46%	89	45%
2 絵本	15	24%	64	53%	33	43%	97	49%
3 紙芝居	22	35%	37	31%	31	41%	68	35%
4 パネルシアター	5	8%	21	17%	5	7%	26	13%
5 歌	8	13%	12	10%	6	8%	18	9%
6 リズム遊び・表現遊び	2	3%	9	7%	1	1%	10	5%
7 ゲーム・集団遊び	11	18%	37	31%	18	24%	55	28%
8 製作	21	34%	55	45%	39	51%	94	48%
9 ピアノ	4	6%	13	11%	11	14%	24	12%
10 朝の活動	19	31%	31	26%	29	38%	60	30%
11 昼食時の活動	16	26%	46	38%	35	46%	81	41%
12 後園時の活動	19	31%	39	32%	35	46%	74	38%
13 お楽しみ会・お別れ会	0	0%	4	3%	0	0%	4	2%
14 送迎バス乗車	1	2%	3	2%	1	1%	5	3%
15 ペープサート	0	0%	1	1%	1	1%	2	1%
16 素話・お話・詩遊び	2	3%	6	5%	3	4%	9	5%
17 人形劇	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%
18 エブロンシアター	0	0%	0	0%	1	1%	1	1%
合 計	162	261%	432	357%	284	374%	717	364%

【実習内容】

次に、どのような実習内容を部分実習、半日実習一日実習で行ったかということを見ていく。アンケートの問4で①部分実習②半日実習③全日実習④研究保育に記入された内容をまとめたものが表1である。

学生が最も多く経験しているのが「絵本」「製作」「手遊び」である。これは、集合時に手遊びをしたり絵本を読んだりする等の短時間の部分実習から始まり、「製作」「ゲームや集団遊び」の活動の部分実習や、少しまとまった時間の「朝の活動」「昼食時の活動」「降園時の活動」の部分実習を経て半日実習や一日実習、責任実習へと移行していく経緯からの結果と思われる。

一日実習を経験せずに終わっている学生も実習終了後の報告会での話を聞いていると、同一の日ではないが、半日実習や部分実習をつなぎ合わせるとトータルでは一日分を経験してきていて、それで一日実習を終えたと思えるとしている幼稚園も多いことがわかる。

絵本や手遊びは朝の活動、昼食時の活動、降園時の活動の中でも行われている。アンケートへの記入がなくても経験している学生は実際にはもっと多くいて、実習後の報告会での話を加味するとほぼ全員の学生が経験していると思われる。

平成7年度の結果と比較してみる。平成18年度で最も多い絵本が平成7年度で7位になり、平成7年度で最も多い紙芝居が平18年度では6位になっていて全く入れ替わっていることが興味深い。

絵本は紙芝居より学生が触れる機会が多く身近であり、発行冊数も紙芝居より圧倒的に多い。種類も豊富なので、より部分実習のねらいや内容に沿ったものが選びやすいということが言えよう。

また時代的な背景として、近年大人向けの絵本が発刊されたり、ファンタジーが注目されたりし、書店でも大人向けに絵本特集が組まれていたりすることも絵本を選ぶ学生が多くなっていることを後押ししていると思われる。

紙芝居は事前に図書館等で借り、舞台を用意するなどあらかじめ準備することが絵本より必要となる。子ども達も紙芝居は絵本より少し、特別なものという捉え方をすることが多く、紙芝居を読むことがわくと喜びの声が上がることもある。紙芝居は舞台を子ども達から見やすい高さ、場所に設定をしてその舞台の扉を開けるところからその紙芝居の世界が始まる。小さな空間ではあ

るがその凝縮された独特の世界はやはり、舞台が存在するからこそその醍醐味であろう。

紙芝居がすぐに読めるよう、その学級の人数やスペースに合わせて適切な高さの、舞台を乗せられる台を各学級に常備してある園もある。絵本とは少し感触が違う紙芝居の世界は是非学生に経験してほしい事の一つである。

【就職前に準備が必要だと思うこと】

これらの部分実習、半日実習、一日実習で経験した内容が反映していると思われるのがアンケート問9の「就職を前にどのような準備が必要だと思いますか」という項目であった。

自由に記述したものを①保育に関すること②自分自身に関すること③就職に関することの3つに分類したものが表2である。

まず、表2-1の分類であるが、項目1の「教材研究及びその製作」には「パネルシアターやペープサートなどの教材を出来るだけ作っておく」というような教材の準備に関すること以外にも「遊びのレパートリーを増やす」「その年齢にあったゲームや歌遊びを知る」など遊びやゲーム・歌遊びまでを含めた。「手遊び」もこの中に含まれると思われるが、特に「手遊びのレパートリーを増やす」など手遊びに関する回答が多く、目立ったので項目2として設けた。

次に内容について見ていく。「就職までに準備しておく」とよいことと「実習を通して考えたこと」は圧倒的に保育に関することが多かった。その、保育に関する事柄で最も多いのが「教材のレパートリーを広げる・教材を出来るだけ準備しておく」(28%)次が「ピアノを練習しておく」(27%)それに続くのが「手遊びを覚える」(16%)であった。これらは、部分・半日・一日実習での上位5項目「絵本」「製作」「手遊び」「昼食時の活動」「降園時の活動」の中で経験したと思われる事柄である。学生は自分が経験したことや実習の中で困ったことに基いて就職までに準備しておくとういことを考えていると推測される。

教材に関しては「手遊び、ゲーム、製作などの色々なアイデアを考え、レパートリーを増やしておくとういと思った」「遊びをばつと提供できるようにたくさん知っておいて自分の引き出しを増やすことが必要だと思う」「何歳児ではどのような教材を使って保育していくこと

表 2 :卒業後にむけて必要な事(平成 18 年度)

表 2-1:保育に関する事例

		大学 (4年)		短大 (2年)		合 計	
1	教材研究とその製作 (パネルシアター等)	49	40%	20	26%	69	35%
2	手遊びのレパートリーを増やす	17	14%	16	21%	33	17%
3	ピアノの練習	32	26%	23	30%	55	28%
4	保育技術を磨く	8	7%	9	12%	17	9%
5	保育観の確立 (保育者像・子ども像)	14	12%	5	7%	19	10%
6	子どもとの関りを増やす	23	19%	6	8%	29	15%
7	発達段階についての理解	9	7%	5	7%	14	7%
8	幼児理解	3	2%	10	13%	13	7%
9	保育知識の復習	10	8%	4	5%	14	7%
10	保育の見聞を広める	2	2%	0	0%	2	1%
11	その他	2	2%	2	3%	4	2%
合 計		169	140%	100	132%	269	137%

表 2-2:自分自身に関する事例

		大学 (4年)		短大 (2年)		合 計	
12	体力をつける	5	4%	2	3%	7	4%
13	正しい言葉遣い (敬語等)	6	5%	7	9%	13	7%
14	判断力・考える力を身につける	3	2%	2	3%	7	4%
15	意欲 (積極性) を持つ	3	2%	1	1%	4	2%
16	心の準備 (社会人・保育者)	5	4%	6	8%	11	6%
17	度胸 (上がらない) をつける	3	2%	1	1%	4	2%
18	自分を知る	5	4%	2	3%	7	4%
19	コミュニケーション力をつける	2	2%	2	3%	4	2%
20	感性を磨く	1	1%	1	1%	2	1%
21	生活経験を豊かにする	4	3%	1	1%	5	3%
22	その他	3	2%	2	3%	5	3%
合 計		40	33%	27	36%	69	35%

表 2-3:就職に関する事例

		大学 (4年)		短大 (2年)		合 計	
23	就職先について調べる	19	16%	13	17%	32	16%
24	試験勉強	7	6%	3	4%	10	5%
25	現場を知る	2	2%	0	0%	2	1%
26	その他	1	1%	0	0%	1	1%
合 計		29	24%	16	21%	45	23%

が望ましいのかなど、教材研究をする」「パネルシアターやペープサートなどの教材を出来るだけ作っておく」等のような記述が多く見られた。

子ども達の前に立ち、いかに話を聞く姿勢を作る事が出来るかが問われ、自分の教材、手遊び、ゲームなどのレパートリーの少なさを実感したのであろう。このように、子ども達の前に立ったとき、困らないようにという事を感じることが出来たことは、今後の学習への動機付けに結びつくと思われる。

これは学生が記述の中で「子どもと関わる機会を増やす、もつようにする」を14%の学生があげていることからわかる。「たくさんの子どもと関わり、様々な経験をする」「少しでも落ち着いて子どもの前に立てるようボランティアをする」など現時点で、できる子どもとの関わりをもっていきたいという意気込みが伝わってくる記述が多く見られた。

項目5の「保育観の確立（保育者像・子ども像）」も一割の学生があげていた。今回アンケートを行った学生は幼稚園実習は2回目、それ以外にも保育園や施設での実習を経験してきている。したがって、園による保育の違いや、施設の種類による保育の違いを経験してきている。様々な実習を経験したからこそ自分の保育観の形成、理想の保育・子ども像・保育者像の形成が必要と感じたのであろう。

問7で「一人一人の先生方が保育観をきちんともっていて、素晴らしかった」と記述している学生は問9で「自分らしい保育、どのような保育者になりたいか考える」と答えている。実習で体験した保育に感激したり、先生方の保育観を素晴らしいと感じたりした学生も保育観の確立の必要性を感じたようである。

実習で実践を経験し短い時間ではあるが教師として子ども達の前に立ち、今までの保育観が揺さぶられると同時に自分の力不足を実感したのであろう。それまで、机上の勉強や「保育はこうでなければならない」という自分がもっているイメージから考えていた漠然とした保育観が、焦点が合うように整理されてはっきりしたものになってくる。実習を経て今までの子ども像や保育者像が広がっていく。そこで、より明確な保育観の確立をしなくてはと感じたのであろう。学生時代に培った保育観はその後、保育をしていく中で少しずつ変容していくが、その大事な根幹の部分は学生時代に形成されるものであろう。学生時代は、実際に働く前だからこそ、純粋に保

育のことだけを考え、子どものことだけを考えられる貴重な時間だと思われる。

表2-2の自分自身に関する事柄で多くあげられているのが項目13の「正しい言葉遣い・社会人としてのマナー」を身につけるということであった。実習は学生としてはあるが、社会人としての第一歩を踏み出す機会である。それまでは、友達同士の中でのみ通用する話し方でも困ることはなかったであろう。だが、教師として子ども達の前に立ったり、保育者と話をしたり、先生方が保護者と話しているのを聞いたりという経験をした時に、これまでの自分の話し方では通用しないことがあることに気付いたのであろう。

保育者として子ども達や保護者の前に立つ時、正しい言葉遣いが出来ないと困るのは自分自身である。実習でそのことに気付くことが出来たことは大きな収穫であろう。「社会人としてのマナー」は働く上では出来て当然と見なされることである。挨拶をすることから始まり、提出物を期限までに仕上げるなど、学生としては多少マナー違反をしても許されたことでも社会人としては許されなくなることが多い。実習はその厳しさに触れる機会でもある。自分をどのように律していくかという事を考えるきっかけとなることであろう。学生も「子どもに教える立場なのだから最低限の常識を知っておく必要があると思う。」と記述している。

パーセンテージは高くはないが、コミュニケーションに関しての記述が見られたことは注目に値すると思われる。「コミュニケーション能力をもっと身につける必要があると思いました」「伝えたいことを上手くまとめて話す練習」等と書かれていた。これらの学生の問10の「あなたの理想とする保育者像を書いて下さい」に対しての答えが「子ども、親から信頼される保育者」「色々な活動に取り組めるような言葉がけや配慮の出来る保育者」「育児相談も出来る保育者」であった。

保育はまさにコミュニケーションの中から生まれていく営みである。そして、保育者は子ども達、保護者、同僚の先生等様々な場面で人と関わっていく職業である。そこではコミュニケーション能力は欠かせないものとなってくる。一朝一夕に身に付くものではないだけに学生時代からコミュニケーション能力を身につけようと意識して過ごせることは有意義であろう。

これらの表2-2自分自身に関することであげられたことは保育者として、社会人として必要なことである。学

生は実習を通して、保育者としてまた、社会人としての自覚の形成の第一歩を踏み出したと言える。

IV. 結果と今後の課題

以上のようなことから次のことがわかった。

1. 部分実習を数回繰り返し半日実習を経験した上で一日責任実習を行うというステップを踏むことで効果的な実習を行うことが出来る。
2. 部分実習で経験した内容が就職までに準備しておくとういと思えることに密接に関連している。
3. 実習を経験したことで実践と理論の統合が促され、新しい学習意欲への動機付けとなっている。
4. 自分自身を振り返り、正しい言葉遣いや社会人としてのマナーを身につけなくてはならないと考えるなど、社会人・保育者としての自覚の芽生えが実習を通して見られた。

今後の課題として次のことに取り組んでいきたい。

1. アンケートの各項目の関連性がよりわかるよう設問の工夫をし、分析を行う。
2. 4週間の実習を2回に分けて行っているがその1回目と2回目の段階をどのように行うことがより効果的な実習となるかを探る。
3. 1回目と2回目の実習の間をどのように過ごすことが有意義であるか検討する。
4. 過去にとったアンケートのデータも活用していく。

〈参考文献〉

- 1) 小山望・川勝泰介・柴崎正行・鈴木政次郎編著「教育・保育実習の手引き」
- 2) 阿部明子編著「教育・保育実習総論」
- 3) 赤田博・野村知子編著「教育・保育実習総論」
- 4) 小川清実編著「幼稚園実習」

Summary

What kind of practice is the most useful for the students who wish to be a teacher of Kindergarten? As a first step to address this issue, we have investigated the actual circumstances of the teaching practice at Kindergartens; the steps of practice which the students are following; the impressions and the concerns with which they return to the campus. We have found that i) the successive steps of practice (a partial practice, a half-day practice and a final practice with responsibility) are very practical; ii) the contents of the partial practice are closely related to the preparation for job-hunting; iii) the experience of practice is helpful to unify the theory and the practice and to motivate further study; iv) it is useful for the students to obtain the consciousness to be individuals with common sense and a teacher of Kindergarten.